

---

令和8年度

# 施政方針

大和市

---

本日ここに、令和8年度の予算並びに諸議案をご審議いただくにあたり、私の市政に対する所信の一端を申し述べ、議員並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、大和市をより良い都市に成長・発展させたいとの思いを強く抱き、市長就任以来、大和市民がつながり、未来に向かって歩いていける、そして、こどもから高齢の方まで幸せを実感できるまちづくりに、全力を傾けてまいりました。そのようなまちづくりを推し進めるにあたり、また、市政の舵取りを任された者の責務として、事務事業の見直しのほか、国民健康保険税率や下水道使用料の改定など、持続可能な行政経営に必要な対策も講じてきたところです。

しかしながら、少子高齢化対策をはじめとする社会保障関係費や、過去の積極的な建設事業による公債費と施設管理経費が拡大する中で、近年の急激な物価高騰の影響も重なり、令和6年度決算の経常収支比率が100%を超えるという形で、本市財政の構造的課題が浮き彫りになって表れたものと受け止めております。

これを踏まえ、抜本的対策を講じることが急務であると判断し、昨年12月に財政健全化ビジョンを定めたところであり、今後、集中的かつ短期間のうちに具体的な結果を得られるよう、覚悟を持って財政の健全化を推し進めてまいります。

本市は幸いにして、財政再建団体となるほどの状態には至っておりません。人口は依然として増えており、地方税収は増加基調にあることから、真に必要な事業を見極め、対策を講じていくことにより、市民の皆様持続可能な形で行政サービスを提供できる体制への転換が可能な段階であると認識しています。したがって、令和

8年度予算につきましては、真に必要な事業に資源を集中することに重きを置き、実施方法等を工夫するといった考えのもとで適切な行政サービスを提供できるように編成したものとなっています。今の財政がこれまでになく厳しいことは間違いありませんが、「チャンスはピンチの顔をしてやってくる」との言葉があるように、この状況を否定的な側面のみから捉えるのではなく、大和市を生まれ変わらせるための転換点とすべく、チャンスとして生かしていかなければならないとの思いを強くしているところです。

そのために、必要なものは何か。それは、我が国における社会情勢の変化を踏まえながら、もう一度、大和を見つめ直し、そして大和の力を生かした最適解を追求していくことではないでしょうか。

日本は、Made in Japanで世界を席卷した高品質の製造業を中心に、国際競争を繰り広げてきましたが、そのシェアが低下傾向にある一方で、国内における少子高齢化の進展は、人が人を支えるサービス業などへ産業構造をシフトさせたと言われています。成熟していく優しい社会は、良いことではありますが、それを維持するためには、競争力や強さも獲得していかなければなりません。

したがって、本市においても将来にわたって活力のある大和市となるよう、そして市民の皆様に住んでいてよかったと実感していただけるよう、長期的な視点を併せ持って、様々な大和市の魅力を生かした戦略的な投資を進め、持続的で確固たる税収や歳入基盤を持つ市にしていきたいと考えます。私は、現場で汗をかく人が報われる大和市をつくりたい。優しさを強さに変え、そして、未来に誇れる大和市を、皆様と一緒につくってまいりたいと思います。

大和市には、大規模河川や海岸線などがなく、自然災害の影響を受けにくい地形と言えます。加えて、坂が少なく平坦であるうえ、私鉄3社の駅が8つもあり、いずれの駅もおおよそ市域の徒歩圏内に位置していることから、安全安心かつ移動に便利なまちという大きな強みも持っています。こうした様々な魅力を備える大和市は、先ほど申し上げましたように人口が依然として増加していることから、選ばれるま

ちとしての力を備えていることが、うかがい知れると思います。

このような特長を踏まえ、鉄道事業者によるかつての都市開発の計画のような、いわば、令和版林間都市構想ではございませんが、北のまち、中央のまち、南のまちの駅を基本としながら、大和市の魅力を生かしつつ、都市の新陳代謝を促していけるよう、道路基盤整備の方針を定め、大和市の更なる発展に向けた、まちづくりのグランドデザインに結びつけていけるよう取り組んでまいります。

次に大和市と宇宙について取り上げます。私自身も宇宙に思い入れがあり、いつの日か宇宙船に乗って地球から飛び出し、できれば宇宙人にも会ってみたいと思っています。このように申しますと、突拍子もない荒唐無稽な話のように聞こえるかもしれませんが、既に米国では民間の宇宙旅行が現実のものとなり、また、経済産業省が公表している資料にも、宇宙開発産業の市場は2040年までに140兆円に上るとの予測が示されているところです。JAXAのある相模原市と接している本市には、小型衛星を製造する企業が進出しています。また、航空機整備を担う事業所を擁する厚木基地が所在している地域特性も備えた大和市には、未来につなげていけるポテンシャルが十分にあると考えています。

大和の大きな力として忘れてはならないのが、自治会をはじめとする地域コミュニティの存在です。住民のつながりを育み、美化や防犯活動によって日常生活を支えるほか、大規模災害時に共助の役割を果たす地域コミュニティは、まさに、市の宝であると私は思っています。その持続可能性を確保していけるよう、市として地域の負担軽減を図りつつ、地域における人と人、そして行政とがつながり、支援していくような枠組み、環境づくりを目指し積極的に取り組んでいきたいと考えています。

そして、先人たちが残した「大きく和する」、「大和」という貴重なブランドにつきましても、まちのにぎわいを高めていくために積極的に生かし、市民の皆様のご協力を賜りながら、その価値を高め、将来にわたって残していけるよう、今の時代の市政を預かる者として、大和市民のために全力を傾けてまいり所存です。

それでは、第10次大和市総合計画の将来都市像「みんながつながる健幸都市やまと」の実現に向けた7つの目標に沿って、新年度の事業について、説明を申し上げます。

**はじめに、「いつまでもみんなが元気でいられるまち」でございます。**

私は、人が元気でいられるためには、心と体、両方の健康が何よりも大切だと捉えております。特にスポーツは、自ら体を動かすこと、気分を変えたりストレスを解消すること、仲間と目標に向かって挑戦し苦楽を分かち合うことなどを通じ、心と体を強く、健康にするのはもちろん、性別や世代、国籍を超えた交流を生み出し、新たなつながりを育む貴重な機会となります。

スポーツを通じて多くの効果を生み出すために、新年度も引き続き「する」・「みる」・「ささえる」・「つながる」の4つの視点からアプローチし、体を動かしたり、トップスポーツを観戦する機会の提供、スポーツ活動を支える人材の育成、スポーツを通じた地域づくりなどを行いつつ、こどもたちが楽しい時間を過ごし身近な場所でスポーツの魅力に触れ合える機会として、新たな形のエンジョイスportsを実施してまいります。

**2番目の目標は、「将来を切りひらくことのできるこどもが育つまち」でございます。**

学校給食は、私も小中学生の頃、一日のうちの大きな楽しみの一つでありました。そして自分自身の体と心の成長を支えてくれたものでもあり、こどもたちの健康と成長にとってかけがえのない存在であると認識しています。新年度から、小学校の給食費の負担は、国の施策に基づき軽減されることとなりますが、本市では、中学校についても支援を行っていく考えです。今年度の時点で、中学校の給食費について、半額以上の支援を行っているのは、県内19市中、4市にとどまっていますが、本市では、新年度に物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して半額補助に取り組んでまいります。

また、教育活動の場としてはもちろん、スポーツ開放や災害発生時の避難所としても利用される学校の体育館について、近年の猛暑への対策として空調設備の設置が求められています。特に、夏休み中の部活動でも利用される中学校において早急な対応が必要と判断して設置工事を進めており、今年度までに4校が完了し、新年度には残りの5校の整備を行ってまいります。

未就園児のいる子育て世帯を支え、全てのこどもの育ちを応援するため、国は「こども誰でも通園制度」を創設しました。本市でも、新年度からの実施に向けて準備を進めておりますので、ぜひ、ご利用いただければと思います。

また、保育所の安全で良好な保育環境を維持できるよう、老朽化した民間保育所の建替を支援するほか、公立保育所2園の改修工事を進めてまいります。

### **3番目の目標は、「みんなが支え合うまち」でございます。**

令和6年4月に開始した「福祉ここから相談窓口」は、高齢、障がい、生活困窮などによる複数の福祉課題を抱える方がワンストップでサポートを受けられるよう、その世帯が抱える課題を包括的に支援できる取り組みとなっております。相談件数の実績を見ますと、昨年度は402件、今年度は1月末時点で467件と増加しており、この取り組みの周知が進み、有用性も高まっていると捉えております。新年度は、具体的な対応事例を共有することなどによって、市民相談や税に関する部署も含めた庁内での連携がより円滑に進むようにするとともに、医療機関や県保健福祉事務所、地域包括支援センター、民生委員などの外部との連携も強化してまいります。

また、本市では、地域全体で認知症の方やその家族と価値観や体験を共有しながら認知症を理解し、その人が望む暮らしを続けられるまちを目指しています。そうした中、昨年、認知症の方やもの忘れの症状がある方にご協力いただきながら市内で撮影した動画「認知症とともに歩むまちやまと」を公開、さらに、認知症の状態に対応したサービスについてわかりやすくまとめた「認知症とともに生きる旅のガイド」も作成しております。新年度におきましても、このガイドブックの普及や認知症サポーター養成講座の開催などにより、認知症への理解がより一層進むよう、取り組んでまいります。

### **4番目の目標は、「地域の絆が深く、多様性を認め合うまち」でございます。**

地域コミュニティの活動を支える拠点となっているコミュニティセンターについて、新年度には、桜森会館の空調改修工事と、福田会館の空調改修工事の設計を行い、利用環境の保全を進めます。また、移転整備を行ってまいりましたコミュニ

ティセンター下鶴間会館がいよいよ完成し、この4月に開館いたしますので、ぜひ、下鶴間地域の拠点として、多くの皆様にご利用いただければと思います。

### **5番目の目標は、「にぎわいを生み出すまち」でございます。**

本市では、企業を支援する様々な制度を設けております。その一つである企業の新規立地や事業拡大を支援するための奨励金制度について、新年度は、対象業種の拡大や支援内容の充実などについて検討し、より実効性のあるものとなるように見直しを行います。また、不動産事業者等と協力し、本市への進出を希望する企業に市から用地情報等を提供する仕組みを構築していくほか、創業・起業の志を持った挑戦者を支援し、市内産業の活性化につなげてまいります。

大和地場野菜を積極的に活用する飲食店を「大和地場野菜使用店」として認証する制度を令和6年8月に開始して以降、今年度には新たに7店舗が加わり、現時点で30店舗まで増えています。新年度には、地場農産物の更なる消費拡大に向け、認証店舗が一層増えるように制度の周知等に取り組むほか、学校給食での地場野菜の利用拡大や、市役所における地場農産物即売会の実施回数を増やすなどの取り組みを進めてまいります。

今年はいよいよ、神奈川大和阿波おどりが50回を迎える節目の年です。本市としても、機運の醸成に一役買い、一層盛り上げていけるよう、本番に先立ち、歴史や伝統を後世に伝える記念のシンポジウムを開催いたします。多くの先人の努力により、「関東三大阿波踊り」と呼ばれるまでに発展を遂げた大和阿波おどりを多くの方に楽しんでいただき、50回目の真夏の空の下、大和が大きなにぎわいに包まれることを願っております。

### **6番目の目標は、「安心して暮らせる安全なまち」でございます。**

近年、過去最多を更新している救急出動件数や、災害級とも言われる夏の暑さ、激甚化している自然災害など、消防行政を取り巻く環境は厳しさを増しています。そのような中、新年度には、海老名市・座間市・綾瀬市とともに県央東部消防指令セン

ターの共同運用を開始し、消防指令システムの高機能化や情報の一元化による市域を越えた救急業務の相互応援など、消防力の強化を図ります。また、高規格救急自動車の新規整備や消防ポンプ自動車の更新を行い、市民のいのちを守る体制確保に万全を期してまいります。

本市が大規模災害に見舞われた際には、被災していないエリアからの応援をスムーズに受け入れられることが重要となるため、「大和市災害時受援計画」の策定を進めております。災害発生時には、この計画に基づいて本市の受入体制を構築することで、円滑な災害応急活動につなげてまいります。加えて、3月に公表される神奈川県地域防災計画の修正内容を踏まえ、新年度には、本市も「大和市地域防災計画」の修正に着手し、地震をはじめとする災害に、より適切に対応できるよう取り組んでまいります。

本市では、犯罪の発生を抑えるため、街頭防犯カメラを設置しており、必要に応じてカメラ画像の警察への提供も行ってまいりました。新年度は、市が設置した防犯カメラについて順次管理手法を改め、新しい防犯カメラに更新いたします。これにより、迅速かつ効率的に画像データを取得できる体制となるだけでなく、経費の縮減も図られます。今後も、警察や関係団体等と連携し、市民の皆様の安心・安全を確保してまいります。

#### **7番目の目標は、「人と環境に優しい都市空間が広がるまち」でございます。**

都市の骨格を形成する道路は市民生活や企業活動を支える基盤として大変重要です。このため、新年度も、広域的なネットワークの構築に必要な福田相模原線について、南林間地区における用地取得や福田地区における原福田跨線橋の予備設計を行うほか、内山地区では都市計画道路の整備に向けた調整などを着実に進めてまいります。

近年、相鉄線がJR線や東急線との相互直通運転を開始したことに加え、本市に隣接する横浜市瀬谷区において国際園芸博覧会が来年開催される予定であり、その後

のテーマパーク開業も計画されていることから、大和駅周辺は更なる発展が期待できる地域であると考えます。こうした環境の変化を生かし、大和駅周辺の新たなにぎわいを創出するため、まちづくりに関わる様々な立場の人が協議する場、いわゆるエリアプラットフォームの構築を目指す準備会を今年度に立ち上げており、新年度には、この取り組みを一層推進してまいります。

国際園芸博覧会では、大和市の魅力を発信するとともに、市民の緑化活動の活性化にもつなげられるよう、園芸作品を展示いたします。「ドカベンスタジアム」が愛称の大和スタジアムをモチーフに、スタジアムにあるブロンズ像を実際に利用する作品を検討しており、市内外の多くの方にご覧いただきたいと考えております。

本市では、ごみの散乱のない清潔できれいなまちを目指し、様々な形で清掃活動を実施しています。今年度は、「スポGOMIやまとカップ」に加え、ごみ拾いをゲーム感覚で楽しめる「LUCKY GET大作戦」や、参加者がピカチュウになりきってごみ拾いをする「ポケモンピカピカ団with大和市」を開催し、多くの市民の方にご参加いただきました。こうした清掃イベントは、市民同士の交流が生まれる場にもなっていますので、新年度は、より多くの方にご参加いただけるよう、内容を充実させてまいります。

また、人と環境に優しい都市空間に向け、計画的に進めてまいりました公共施設の照明LED化について、新年度は、山王原子供広場など13の公園をはじめとする施設において工事を実施し、着実な進捗を図ってまいります。

#### **最後に、厚木基地に関わる取り組みについて申し上げます。**

近年、我が国周辺における安全保障に関わる動向や、国際的な紛争に関する報道等を目にしない日はないと言ってもよいほど、国際情勢は緊迫の度合いを増しております。米海軍と海上自衛隊が共同で使用する厚木基地を抱える本市といたしましても、そうした国際情勢の中で基地の運用などに、どのような影響が生じていくのか、状況を注視していくことが必要です。

現在、国は、空母艦載機移駐完了に伴う騒音状況の変化を受け、住宅防音工事の助

成に係る第一種区域等について、平成18年以来となる見直しを進めております。また、これに先立ち、昨年末には、本市が長年要望し続けていた告示後住宅の対象拡大が実現し、本市では新たに約2万世帯が助成を受けられることとなりました。住宅防音助成は、国が市民の皆様へ直接実施する事業ではありませんが、多くの市民に関わることから、本市といたしましても、市民への丁寧な説明や対応について、引き続き、国に強く求めてまいります。

区域の見直しが進む一方で、本市においては今もなお、米軍のジェット戦闘機や低空で飛行するヘリコプターなどによる騒音被害が生じ続けています。今後も、騒音軽減や航空機の安全確保、周辺対策の拡充等について、国や米軍にしっかりと働きかけてまいります。

そうした基地対策の取り組みと併せ、基地が本市に所在する実情を踏まえ、米海軍、海上自衛隊との相互理解の促進や、災害時の連携強化を図ることも重要であると考えております。今年度は、厚木基地で行われた米海軍のイベントに市のPRブースを出展するなど、新たな試みを始めました。新年度におきましても、厚木基地との情報交換、交流、連携強化等を促進できるよう取り組んでまいります。

以上、私の市政に対する所信及び新年度の事業について、申し述べてまいりました。

新年度も、市民の皆様、農業・商業・工業をはじめ、市内の産業に携わる皆様、市議会議員の皆様、そして行政、皆の力を結集し、幸せを感じられる未来に向けて邁進してまいりたいと考えております。

今後とも市政への更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げて、令和8年度の施政方針といたします。